2025年度（令和７年度）施設関係者評価　　報告書

令和　８年１月26日

① 本園の教育目標

- キリスト教の「愛」を基盤とし、一人ひとりを大切にする少人数教育の中で、お互いへの関心を持ち、お互いを認め合うことができることを身につけていきます。
- 子どもの成長にとって大切な「あそび」や様々な活動を通して、探究し、判断し、創造的に関わり、心豊かに育つよう保育・教育を行います。
- 心の教育だけではなく、健康な体づくりをめざした保育・教育を行います。
- 「食育」を大切に考え、管理栄養士作成の献立により、自家製の給食を行い、その中から,「食」の大切さや感謝を学べるようにします。

〇一人一人を大切にする教育
〇創造性と自己表現力を育てる教育
〇体づくりに取り組む保育

キリスト教の「愛」を基礎とした幼児教育

（１）子どもが、大切なひとりとして自分自身が受け入れられていることを感じ取り、自分自身を喜びと感謝をもって受け入れられるようにします。
（２）子どもが、お互いの違いを認めつつ、一緒に過ごす努力をし、そのことを喜びとするようにします。
（３）子どもが、心を動かし、探求し、判断し、創造力を持ち、創造的にさまざまな事柄に関わるようにします。
（４）子どもが、私たちの生きる自然や世界を神様による恵みとして受けとめ、それらの事柄に関心を持ち、自分達のできることを考え、行うことができるようにします。
（５）子どもがイエスさまを身近に感じ取ることを通して、見えない神様の恵みと導きを感じ、「イエスさまと共に」毎日を歩もうとする思いを持つようにします。

②本年度重点的に取り組む目標・計画

- 一人一人の幼児を大切にした質の高い教育の実践を目指す。
- チーム保育などにおける教育間の協力的な指導をはかる。
- 教育の質向上のための園内研修を充実させる。

③評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育の計画性	A	・４月に年間カリキュラムを立て、年間の見通しをたてた。 ・月案を立て、１カ月の保育・行事に向けての準備の計画を立てた。 ・週案を毎週金曜日の職員会議で発表し、それぞれの保育の見通しを幼稚園全体で共有し、連携を図った。 ・職員間の横の連携が取れていた為、それが良い保育につながった。 ・新しい活動として、今年度は月に１回のリトミックを始めた。その為の時間確保として、それぞれの担任が保育の計画の見直しを行い、無理のない計画でリトミックの時間を楽しむことが出来た。 ・昨年度の反省をいかし、今年度は広い公園や小学校の校庭を利用して体を十分に動かす活動を計画的に取り入れた。 ・日々の保育を進める際に、各担任が活動の導入として、計画的に準備を行い活動が更に分かりやすく、楽しく行えるようすすめていった。 ・「すくわく」の活動（稲の栽培）として活動を計画的に行い、その結果、出来たお米を保護者とともに食べることが出来た。またこの活動を通して「食育」へ繋げることが出来た。 ・年少と年中の合同の行事をする際に、両クラスの活動の計画を立てながらすすめることで、子どもたちにとっても良い結果となった。
2	子どもの育ちの評価	A	・保護者の方々へ、毎月月末にそれぞれのお子さんの様子を伝えるコメントを書いたり、クラスだよりで園でのクラスの様子・活動を伝えることで、保育者自身が子供の成長する姿を思い返すことができた。 ・決められた時間内の勤務の中で、保育者

			同士の日々の雑談等から子供たちの姿を共有することができ、他のクラスの子供たちの姿にも気付く事ができた。そのことによって,園全体の子に対して意識して接することができた。このような時間は今後も大切にしていきたい。 ・子供たちの頑張りや成長を誉めてあげようという気持ちが基本となる保育が行われ、その保育者の姿勢が子供の成長に繋がっていくと感じた。子ども自身も自分に自信を持てるようになっていると感じる。 ・行事を通して、保護者に子どもの姿をみてもらう事ができて良かった。お便り帳などの文章では伝えられない子供の姿や先生たちのことを見てもらえてよかった。 ・年少組は、大きな行事の度に子どもの育ちを感じることが出来た。
3	保育のあり方をとおして	A	・満三歳児から年長組まで、他学年との交流を持つ姿がみられた。 ・預かり保育では、利用者が増える事で、縦の関わりが強くなったと感じる。上の学年に対するあこがれの気持ちも強くなり、良い関係性が出来ている。 ・職員間の子供たちに関する情報交換により、学年に関係なく一人一人の子供の事を全員の職員が共有でき、預かり保育等で担任がいない場合にも一人一人に適切な声掛け・接し方が出来た。 ・職員のお互いの協力により、手厚い保育が出来た。 ・保育の中で子供たちの活動に時間差が生まれた際、他の学年の先生がフォローすることで遊びの時間の確保ができた。また、チーム保育の職員との連携により、子どもたちの自由に遊ぶ時間をしっかりとることができた。 ・火曜日・木曜日の礼拝後のお楽しみの時間に各先生が行う手遊びや出し物を通

			して、保育の広がりを感じることができた。 ・自由に遊ぶ時間と集団での活動時間のバランスを意識的にとって保育を行うことができた。
4	保育者の努力	A	・それぞれの職員が、全園児が集まる機会に子供たちが楽しめるような出し物やダンス等を積極的に新たに取り入れ保育の幅を広げた。 ・クラスで起こる問題を全員の職員で考え解決していけるよう進めた。 ・担任が、クラスの活動に必要な物・子どもたちに解りやすく伝えたい事、また保育の導入のための工夫を常に考え準備を行うことが出来た。 ・職員全員で同じ研修を受け、それを保育に繋げることが出来た。全員で取り組む努力をした。
5	保護者とのつながり	A	・毎月１回発行するクラスだより・毎月１回月末にお便り帳にてお子さんの様子を伝えるコメント・ネットのルーテル日記等を通して保護者とつながることができた。また、今年度より写真のネット販売を行い、その結果たくさんの写真を掲載することで、幼稚園の様子を写真を通して伝えることが出来、それが保護者との繋がりとなった。 ・個人面談を年に２回行うことで、おうちの方と情報交換をすることが出来た。 ・年に６回行われるお誕生会では、保護者の方々と共に子供の成長を感じることが出来た。 ・行事を通して保護者の方にも子どもたちの姿を見て頂く事が出来、子供たちの成長を保護者と保育者と共に感じることができた。また、保護者が行事のために幼稚園に足を運んでくださり、保護者との関わりもできた。 ・今年度は給食試食会を行い「食」を通して保護者とつながる時間をもてた。

			・ドライブスルーがなくなった分、各担任が保護者と直接話が出来る時間が増え、良いコミュニケーションがとれた。 ・父母会をなくしたが、各クラスの役員と定期的に会を設け、幼稚園と保護者がつながっていける様にした。今後も続けていきたい。
6	地域の自然・社会との関り	A	・「すくわく」の活動（稲の栽培）をとおして、お米屋さんに直接行って協力をして頂いたり、地域の方にわらを使ってのリースづくりの指導をして頂いたりすることが出来た。 ・地域の保育園や小学校の先生が幼稚園に来てくださり、実際に園の教育・保育を見ていただく良い機会となった。 ・未就園児の集まりを今年度は回数を月１回から２回に増やし、内容も充実させて行うことが出来た。はじめての方に幼稚園の事を見て頂く事ができた。また、未就園児と在園児が関わるプログラムをとおして、在園児にとっても、小さい子と関わる良い機会となった。 ・ルーテルフェスティバルでは、地域の未就園児も遊びに来て楽しんでいた。 ・お芋ほりで地域の畑のかたの熱心なお話を聞き、自然と触れ合うことができた。 ・交通安全教室・小学校の訪問等が子どもたちにとって良い刺激となった。 ・就学に向けて、直接小学校の先生と話し合いを持つ機会や、小学校の授業を見学できる機会あり、小学校との連携の為に良い時間をもつことができた。 ・神明園（養護老人ホーム）を年長の子どもたちが訪ねたり、行事の際にホームの方が見学に来てくださったりして交流を深めた。子どもたちにとっても、色々な方と触れ合える楽しい時をもつことができた。 ・運動会前には、小学生のリレーの取り組みや，旗の演技の取り組みを実際に見せ

			て頂くことが出来、年長の子どもたちも運動会で同じ競技に取り組むため子どもたちによい刺激となった。 ・花の日には、交番・病院・小学校を直接園児が訪ね花束を渡すことで交流を持つことが出来た。 ・警察署訪問を行い、日ごろ経験できないことを体験することができた。
7	研修への取り組み	A	・オンラインで職員全員が学ぶ時間を持てた。学ぶことで、保育のモチベーションにもつながった。来年度に向けてまた受講していくきっかけをつかめた年だった。 ・職員全員で同じ研修を受け学びの時間を持った。 ・今年度も毎月１回の聖書研究の時間をとり、聖書の学びの時をもった。さらに充実した時間となるよう、引き続き行いたい。

評価（A:十分に成果があった　B:成果があった　C:少し成果があった　D:成果がなかった）

④総合的な評価結果

評価	理　　由
A	昨年度の、体を動かす活動が少なかったという反省を基に、今年度は計画的に活動を増やし、また、プールの活動でも活動時期・場所を変える事で反省をいかすことができた。 それぞれの職員が様々な事に、見直し・計画・実行を行うことが出来た。

⑤今後取り組む課題

・新しい活動を取り入れていくために、時間の使い方の工夫をしていく。「遊び」の時間を大切にしていくことを基本とする。

・今後も、小学校の校庭を借りたり、広い公園に行くことで「体」を使った体験を行っていく。

・「遊びの会」等を通して、幼稚園をアピールしていく。

・園児数が減った分、縦の関係をより深めていく。

施設関係者評価委員会の評価

・ルーテル幼稚園に出会うことが出来、親子共々本当にうれしく思っている。
愛情深く接してくださる先生方ばかりなので、親も送迎の際に先生方とお会いするとホッとする。

・先生たちが、楽しく真剣に子どもたちと関わっているので安心。

・設備の面では古いので今一のところはあるが、温かい心と園の方針がとても良い。

・子どもたちが、皆生き生きしている。

・先生たちが長く勤めているという事は、働く環境が良いという事だと思う。

・礼拝を見て、年少から年長までみんな静かにお話を聞いている姿を凄いと感じた。
お祈りの言葉（主の祈り）も覚えていて、成長を感じた。

・幼稚園の頃に苦手意識があった製作や絵画に対して、先生たちが３年間丁寧に関わってくれたため、卒園して小学校に上がってから、制作・絵画が好きになって楽しんでいる。

・温かく、美味しい給食があることがとても良い。

・保護者アンケートより、保護者と先生の関係がよいことを感じる。先生たちが普段から子どもの様子をしっかり把握し、寄り添っているからだと思う。

・園庭の狭さを補えるよう、外部の設備の利用を考えても良いのではないか。電車に乗って出かけるのも良いのではないか。

・園の周辺は区画整理の為工事をしている為、より安全面で配慮する必要が出てくるが、日ごろ保育の中で列になって歩き、園周辺をお散歩するのもよいのではないか。季節によって変化する植物や虫の発見等を、お友達や先生と気づく楽しさもあると思う。

・今年度は年長組が稲を育てたが、それ以外に全学年で毎年野菜や植物を育てるのも良いと思う。

・課外教室に参加している子の発表の場が礼拝の後などにあると励みになるのではないか。

・礼拝のお話のヒントとなるものを保護者向けに発信しても良いと思う。
礼拝の動画の配信も良いのではないか。

・先生方の手書きのお便りは、負担ではないか。パソコンを使っても良いのでは。

・入園前の方に、父母会が大変というイメージが強いようで、今は、父母会がないことを話すと安心している。今年度より、働く保護者が増えてきたことも考え、保護者の負担を減らそうと父母会をなくしたことに感謝している。

すくわくの活動に関するご意見。ご感想

・年長組のみの稲の栽培だったが、年少・年中も登降園時に目に留まるところに置いてあったため観察を楽しめた。毎日口にする「おこめ」を稲から育てられたのは貴重な体験だったと思う。観察画や藁を使った製作など余すことなく活用していて、親もわくわくしている。

・絵画・体操・リトミック・英会話・色々なことへ挑戦する気持ち、好きな事や得意・不得意に気づき、どう乗り越えていくか。子どもたちには様々な刺激を受けて成長するとても大切な時間だと思う。とても良い学びになっている。

・リトミックでは、新しい普段使う事のない楽器やアイテムが増え、子どもたちが楽しんでいる様子が伝わってくる。家に帰ってからも自分から復習している。
リトミックの参観があれば嬉しい。

・体操では色々な事を挑戦しながら楽しんでいる。楽しく体を動かせていてよいと思う。

・絵画では、シャボン玉を見て描いたり、チラシなどを自由に切り貼りして絵を描いたりと、自由な発想でのびのびと表現する事を楽しんでいる。
年度末の絵画展で、他学年の絵を見て成長を感じ感動している。
子どもの絵のコンクールに希望者が作品を出すことが出来るのも良いと思う。